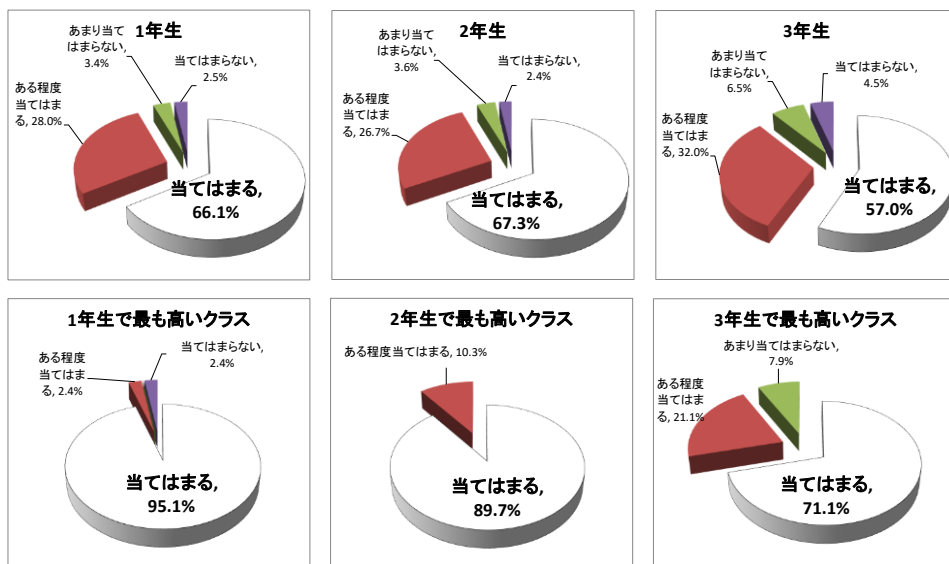


令和6年度第2回ホームルーム活動に関する調査 令和6年12月実施

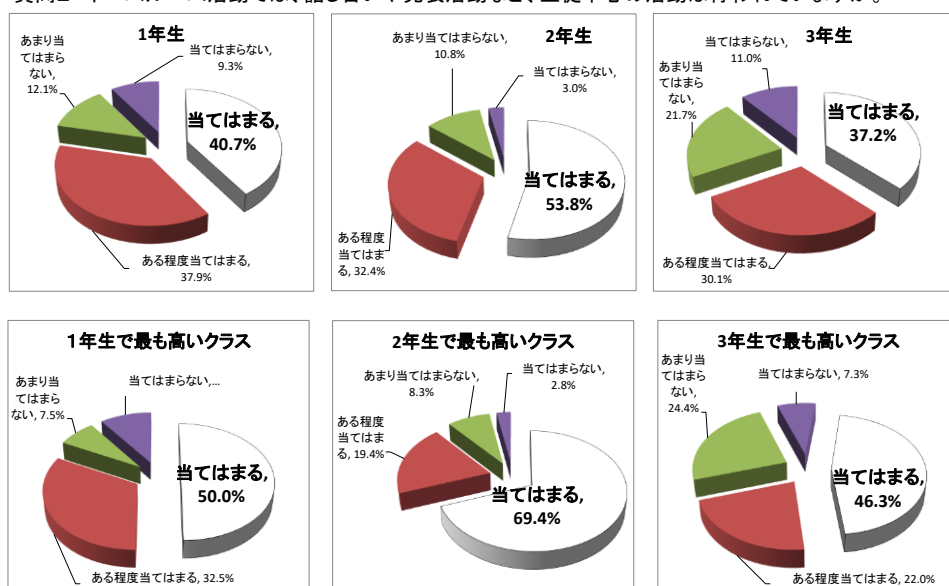
質問1 ホームルーム活動は、計画的に行われていますか。



ホームルーム活動は、年間指導計画に基づいて、意図的・計画的に実施するものですので、クラスによる差が生じることは望ましくありません。クラスによる差は年々小さくなってきてはいますが、「計画性」については大きな差が見られます。

8人・9人の担任が学年の全生徒を指導する体制を維持し、良い取組は学年全体で共有することが重要です。

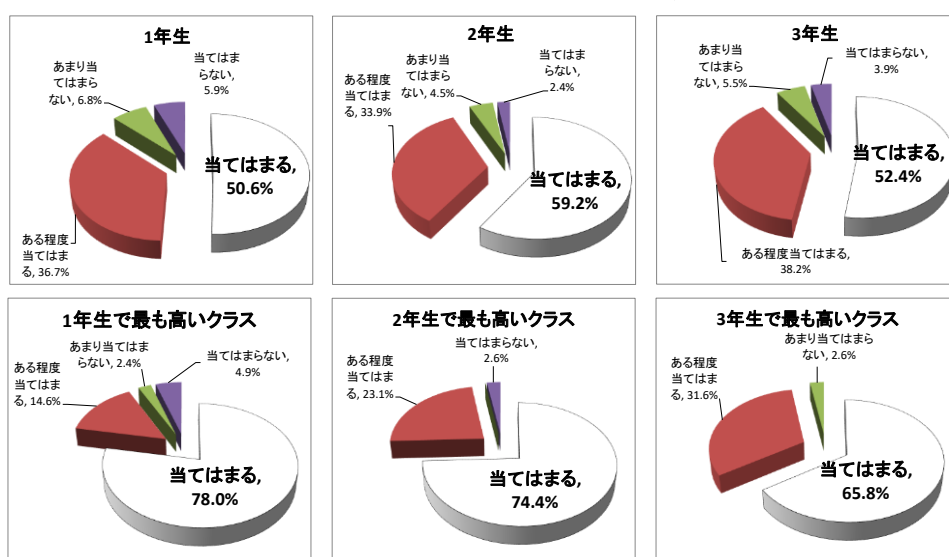
質問2 ホームルーム活動では、話し合いや発表活動など、生徒中心の活動は行われていますか。



話し合いや発表の活動は、生徒の自主性を涵養し、社会性を培うだけでなく、将来の進路について考え、自ら道を切り拓いていく志を立てるために重要な役割を果たしています。

例年、3年生は「当てはまる」が30%前後で推移してきましたが、77期生は第1回調査で5割を超えていました。第2回調査では、概ね例年どおりに戻りました。大きな行事が終わったり、受験が迫ってきた2学期だからでしょう。2年生も前回より15ポイント、1年生も18ポイント下がっています。クラスによる大きな差異は見られません。

質問3 ホームルーム活動で、先生は皆さんの学習や進路に関する期待を表明していますか。



生徒に対して、学習や進路に関する期待を明確に示すことは、生徒の進路実現に重大な役割を果たしています。担任の先生はもちろん、すべての教科担当の先生に、生徒に対する期待を、HR活動や授業において、毎回、明確に示すよう、学校経営計画に位置付けています。

3年生は、クラスによる大きな差異はありません。1、2年生は、「期待の表明」のもつ影響力への理解がまだ十分に浸透していないように見受けられます。